

# 社協ボランティア

(No. 12)

## 情報誌

平成 23 年 12 月 15 日 発行

西和賀町社会福祉協議会・西和賀町ボランティアセンター・西和賀町川尻 40-73-82

TEL 84-2161 FAX 82-3572

### 西和賀町

#### 婦人連絡協議会

##### 大槌町へ

十一月十日に、西和賀町婦人連絡協議会の十四名が、大槌町を訪れ、仮説住宅団地三箇所、約一五〇世帯ほどに、西和賀町でとれた野菜を届けました。



▲西和賀町婦人連絡協議会の皆さんの素敵な笑顔。



大根や白菜ジャガイモ等を、「この野菜はどうやって調理するの?」と質問されたり、「せっかく遠いところから来たのだから、お茶でも飲んで行って。」などと、会話を交わしながら、渡してまわりました。二トントラックいっぱいになり、積んでいった野菜も瞬く間になくなりまりました。

## ハウスヘルパー活動しました



十一月中旬から、ハウスヘルパー秋の統一活動を行いました。ハウスヘルパーとは、一人暮らし高齢者世帯や、高齢者のみの世帯、母子世帯を対象に家屋の補修を行うボランティア活動で、今回は四十件ほどの依頼がありました。なお、作業工賃については、無料ですが、材料代等は実費負担となります。

以前は、統一活動日として、日付を決めて活動しておりましたが、最近はボランティアの皆様も多忙な中の活動なので、一定の期間と割り当ての活動をまとめてボランティアごとの活動となっております。町内の大工さんなど、手に職を持つボランティアの皆様が、担当となり、雪囲いや戸車の交換、手すりの取り付け、開かなくなったふすまの調整などを行いました。冬を迎える前の忙しい時期にボランティアの皆様のご協

力を得て、活動ができました。本当にありがとうございます。

### 厚生労働大臣賞受賞!



二〇一一年度のボランティア功労者の厚生労働大臣表彰・感謝状に、西和賀町からは「西和賀町をつなぐ育成会」と録音奉仕グループ「こだま」が選ばれ長年の社会福祉奉仕活動が認められました。「手をつなぐ育成会」は、障がい者スポーツ大会の介助、ふるさと宅急便の支援等を積極的に行い、長年にわたる地道な活動が認められました。また「こだま」は旧湯田町内の若者有志が結成し、「声の広報」として視覚障害者向けにカセットテープを届ける録音奉仕活動を三十年間継続しています。その後西和賀高校生や西和賀社協職員が参加する等、活動の輪が広がっています。今後益々のご活躍を期待しています。

**スノーバスターズ**  
**会員募集!**



今年も残すところわずかに  
なり、初雪も降って、道路に  
は雪が積もり始める季節とな  
りました。

今年度も、スノーバスター  
ズの活動が始まります。  
そこで、活動していただく  
会員の募集を行います。

今年、一〇四世帯の方々  
が皆様のお手伝いを必要とし  
ております。

活動にご協力いただける方  
は、社会福祉協議会地域福祉  
課（電話八四・二一六一）ま  
でご連絡ください。



▲昨年度のバスターズの様子。  
若い力がなんとも頼もしいです!

基本的に、皆様が住んでい  
る地区内の対象者の除雪が活  
動となります。

皆さんの手助けを求めている  
方々が大勢いらつしやいま  
す。自分たちの地域は、自分  
たちの手で支えあえるよう、  
たくさんのご参加をお待ちし  
ております。



▲除雪前に気合だ〜!!  
がんばるぞ〜! エイエオ〜!

**沢内小学校**  
**キャップハンディ体験**



さる九月五日、沢内小学校  
四年生十九名が、キャップハ  
ンディ体験を行いました。

今回は、三班に分かれ、車  
いす体験、シニア体験、アイ  
マスク体験を行いました。沢  
内小学校にある交通公園を利  
用して、街を歩く疑似体験を  
行うことにより、より実生活  
に近い状況で体験を行いました

た。

車いす体験では、自分で操  
作する体験と介助する体験を  
し、段差や、道路などを通る  
際、どのような困ったことが  
あるかを、感じ取っていただ  
きました。また、介助する際、  
どのくらいのスピードで歩け  
ば安心感があるのか等、介助  
する際の声掛けを意識して  
もらうように行いました。



▲坂を上る時は、介助があると  
楽だね。

シニア体験では、片麻痺の  
症状、白内障の症状を、疑似  
体験セットを使い、再現しま  
した。麻痺がある場合、麻痺  
がある方から着た方がいいの  
か、麻痺のない方から着た方  
がいいのかを、実際に感じ取  
ってもらいました。白内障の  
場合、景色や信号などが、ど  
のように見えるのかを体験し

てもらいました。

アイマスク体験では、アイ  
マスクを使い、視覚障害を疑  
似体験しました。室内や屋外  
を歩く際の違いや白杖を使っ  
て障害物を把握するなどの感  
覚を体感してもらいました。  
また、介助する方も体験し、  
どのように声掛けをすればい  
いのかを感じ取ってもらいま  
した。

体験したことによって、ど  
んなことが大変だったかを感  
じ取ってもらいました。  
ただ「大変だということば  
かりではなく、その大変なこ  
とを少し手伝ってもらえば、  
皆さんと変わらない生活がで  
きる」ということを伝え、「困  
っているところを見かけたら、  
声掛けをしてみてください」と  
話し、体験学習を閉じまし  
た。



▲アイマスク体験の様子。  
何があるのか怖いな〜。